

内閣情報部三・一七(延着) 情報第三號

一重慶日本語放送(十日)(關東遞信官署遞信局聴取)

本月四日日本の平沼首相が又も東亞新秩序建設と言ふおかしな且俗悪な宣傳を繰返へした。この宣傳は目新しきものでなく、昨年十二月の近衛の聲明と重複するものなのである。更に之は歴史的に見れば廣田の三原則の擴大である、それ以來新秩序とは世界周知の如く日本の強盜大陸政策のことなのである。日本政策者は政策を實施することが出来ぬばかりでなく、日本の強盜行爲を粉飾すべく新語を語彙の中から探し出したのである。そうして最も恥ずべきことを口にして居るのである、先づ平沼を藝言を檢討して見ることをする、彼は日本は中國を獨立國たらしめんとすると言つて居るが、少しでも極東の情勢を知つて居れば日本が中國の脅威者たることは誰でも判るのである、中國は今其の獨立の爲日本の侵略者を中國から追出さねばならぬのである。

而して中國は現にそれを實行して居る、今更日本の妙竹林な言葉は變なものである、平沼は言ふ、日本は中國の歐米依存主義を是正する中國は元より歐米依存等と言ふことはない、そんな主義なんかない、中國は中國に對し平等に交はる國を友好國とするのみである、何處に友と敵とを間違へるものがあるであらうか、中國は何時だつて歐米依存と言ふことはない、

日本の宣傳は中國と歐米との間の離間策に他ならない。然も外國に依存して居るのは富の日本なのである。歐洲の二つの國と新しき軍事條約を結んだのは一體何處の國であらうか、平沼は亞細亞を亞細亞人の亞細亞たらしめ東亞に於ける歐洲の政力を一掃せんと言つてゐる。これは結局亞細亞を日本の亞細亞たらしめんと言ふことなのである。日本は印度や印度支那で種々工作をして居るが日本が朝鮮人や臺灣人や滿洲の中國人や更に日本内地人を殺して居ることを亞細亞人は知つて居るのである。平沼は共產黨と闘ふのだと言つて居るが今頃になんと言葉が魅力でもあると言ふのか、中國は傳統的に一つの理想を持つて居る。現在は三民主義を有して居る。然も三民主義は共產主義者すら之を遵奉する主義なのである。日本が張鼓峰事件でソ聯に屈服してからは誰も日本の防共と言ふのを信じなくなつた。平沼は世界人は皆馬鹿だと言つてこんな宣傳をして居るのである。尙日本は少數の中國人を策略に乗せてこの新秩序建設の宣傳をやつて居るのである。世界中一人としてこの日本の宣傳は信じて居ない。勿論中國内では効果があるものではない。只一部の奸漢は日本のラウドスピーカの役を勤めてゐるやうである。平沼は中國は希望なき抗戦をやつて居ると言つて居るが若し之が眞實ならば寧ろ新秩序の宣傳なんかする必要はないであらう。東亞の秩序の安定、世界平和保護には必ず極東各國を起念しめ日本の大陸政策をやつつけねばならぬのである。中國の抗戦は極東の安定の爲のみでなく世界平和の爲なのである。今東亞に關する説は大體三つに分れ

て居る。一つは日本に總てを與へる。總てを日本に渡し日本が東亞の首導者になるべきであるとの説である。田中、天羽、近衛等の説は之に屬する。他の一つは中國は須く獨立し自己の道に進むべきである。そうして歐米と合作して進むべきである。平和あつてこそ世界の文明は存続すると言ふ説である。三民主義等はどの種の説の代表とも言ふべきものである。九ヶ國條約、國際聯盟も之と同じ精神である。中國は之の見解を以て既に一年八ヶ月の抗戦をして來た。前者の説は人類の滅亡を招來し。文明の破壊を齎すものであり。後者の説は之に反對である。中國は建設的且平和的理想を以て奮闘して居る。平和の秩序の維持の責務は敢て中國のみ負擔せしむべきではなく九ヶ國條約及國際聯盟加盟國全部が義務の履行を要するものなのである。之が爲には必ずしも戦争を必要としない中國に對しては經濟的に積極的援助を與へ日本に對しては經濟封鎖を斷行すればよい。斯くして世界各國は各々の生存を強化することが出来るのである。既に日本は列國を押へる力はなくなつて居る。平和を愛好する國は中國と合作して日本に抗すべきである。いや、それに付てはもう既に其の歩を進めつつあるのである。

日本側は遂に参加
 した。日本側は遂に
 参加した。日本側は
 遂に参加した。日本
 側は遂に参加した。

内閣情報部三。一七 情報第四號

◎第一回漁區競賣の結果
同盟來電—不發表

モスクワ十六日發（アヴァス電）
 「極東漁區の競賣は豫定通り十五日ウラヂオストツクに於て施行された、日本側は遂に参加
 しなかつたが、競賣に附されたのは舊日本側漁區たる二百五十五區を含む二百九十三區で、
 このうち落札したのは僅かに四漁區に過ぎなかつた。よつて第二回の競賣は二週間以内に施
 行されることとなつたが、ソヴェト側は第二回の競賣が施行される以前に日本との妥協が成
 立して日本側がこの競賣に参加するよう希望してゐる、尙ソヴェト側としては舊日本漁區の
 うち十漁區だけはソヴェト側で確保したい意向であるがそれ以上のことは欲してゐない模様
 である、漁區問題を通る日ソ關係の緊迫に關聯し最近日本の在滿部隊が増強されたこの報道
 が傳へられてゐるが、ソヴェト政府筋ではかかる報道はあまり重要視してゐない。